

SDGsスタートアップ研究分科会・2023年度ベーシックコース第2回実施報告

2024年2月17日

PMI日本支部 理事

SDGsスタートアップ研究分科会代表

稲葉 涼太

去る2月10日(土)、SDGsスタートアップ研究分科会のベーシックコース第3回の会合を開催しましたのでご報告いたします。

1. 2023年度SDGsスタートアップ研究分科会の概要

■ 【SDGsスタートアップ研究分科会とは】 PMI日本支部は、SDGs達成プロジェクトを効果的に軌道に乗せ推進する方法の開発・普及を図るために、2019年10月から内閣府「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」に「SDGsスタートアップ研究分科会」を設けています。2020年度よりSDGsプロジェクトのマネジメント手法を学ぶ「ベーシックコース」と、実際に事業として行っているSDGsプロジェクトを支援する「アドバンスコース」の二本立てで実施しております。

A) ベーシックコースについて

SDGsが社会に浸透し、「Why SDGs?」と「What is SDGs?」が提唱される機会も増えました。SDGsを絵に描いた餅にしないために実際にSDGsを事業として推進することが大切です。

しかし、SDGs事業の取り組みを始めようとしても立ち上げ推進が中々効果的にできていないという課題認識を私達は持っています。

「How to Achieve SDGs」のためにSDGs事業に即したプロジェクトマネジメント手法である『SDGsスタートアップ方法論』を研修・ワークショップ形式で体得できるコースです。

毎年度、企業・自治体・学校・非営利法人等多くの多様なバックボーンを持つ団体に参加いただいています。

今年度も10月、12月、2月の計3回の分科会を開催しています。

B) アドバンスコースについて

アドバンスコースは原則として昨年度のベーシックコースに参加された団体で実際に実行されているSDGsプロジェクトを対象として伴走型のPM支援を行います。

今年度も、既に株式会社・学校教育機関・非営利法人における実際のSDGs事業の支援を行っています。

第3回のテーマは「ベネフィットリスト」というPMI日本支部のオリジナル手法です。SDGs事業の事業がもたらすベネフィットと受益者を明確にし、事業評価を定量的に行い、事業が上手くいっているのか、改善や方向転換の必要があるのかを検証するとともに、ステークホルダーへの報告とコミュニケーションを行うためのツールです。

ロジックモデルで策定した事業のアウトプットの活動評価と、アウトプットが実現するアウトカムの成果評価を可視化し素早く検証できるようにすることで、事業が上手くいっているのかそれとも見直しが必要か、見直す場合どのようなカイゼンやピボットが必用かを考えることができます。

そして、アウトプットとアウトカムが各ステークホルダーにどのようなベネフィットをもたらすかを可視化することで、事業の「目的」に対して事業の「活動」と「成果」が整合していることを検証できます。

また、SDGsの事業を行うためには組織単体ではなく異なる組織でインパクトを集めて創発するコレクティブインパクトの話も講義の中で触れましたが、コレクティブインパクトを実現するにはより透明で正確性のあるコミュニケーションが信頼構築の上で大事です。コミュニケーションを行う上でも定量的な評価は大事でそのためにも、ベネフィットリストが有効であると考えます。

第1回講義にてリーンキャンパスでSDGs事業コンセプトを可視化した後に、第2回でSDGs事業のロジックモデルを策定し、第3回で目標の設定と評価を行い、軌道修正をしながらSDGs事業を推進するアジャイルなアプローチを体得する研修三部作でした。

The figure consists of four presentation slides related to the 'Benefit List' (ベネフィットリスト) concept.

- Slide 1 (Top Left):** Titled '講義・ベネフィットリスト', it defines '目的' (Purpose) as the overall goal and '目標' (Target) as specific goals to be achieved. It shows a flow from 'Start' through '目標' to '目的'.
- Slide 2 (Top Right):** Titled '講義・ベネフィットリスト', it presents an 'SDGs事業のための評価モデル' (Evaluation Model for SDG Business). It shows a flow from 'インプット' (Input) through 'プロセス' (Process) to 'アウトプット' (Output) and 'アウトカム' (Outcome). It also includes '社会的インパクト' (Social Impact) and 'インパクト評価' (Impact Evaluation).
- Slide 3 (Bottom Left):** Titled '講義・ベネフィットリスト', it shows '2. 成果物イメージ(2) ベネフィットリストの例(前掲: ロジックモデルとの対応)' (2. Outcome Image (2) Example of Benefit List (Previous: Correspondence with Logic Model)). It contains a table mapping business activities to SDG goals and their corresponding benefits.
- Slide 4 (Bottom Right):** Titled '講義・ベネフィットリスト', it shows '3. ベネフィットリスト作成手順' (3. Benefit List Creation Procedure). It details 'STEP1: 指標の検討' (STEP 1: Consideration of Indicators) and shows how to link 'アウトカム' (Outcome) to 'アウトプット' (Output) and 'インパクト' (Impact).

図2 講義資料 (一部)

ワークショップではPMI側がロールプレイ用に用意した、マルチステークホルダ型の仮想SDGs事業シナリオを元に以下のワークを進めました。

- ① アウトプットとアウトカムそれぞれの評価の為の指標を検討する
- ② 指標の目標および測定方法を検討する
- ③ 各アウトカムが価値提供する「主たる顧客」を検討する
- ④ 「主たる顧客」に対する価値提供（ベネフィット）を検討する

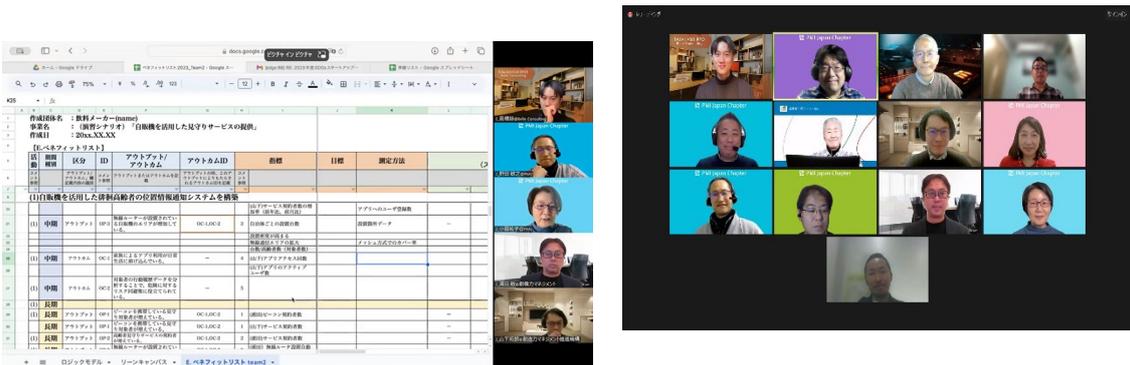


図3 ワークショップの様子

ベネフィットリストを作成した後、YWTという振り返りワークフレームを用いて全3回の分科会の振り返りを行いました。

参加団体から、全3回を通じたワークフレームや方法論がSDGs事業を行う上での有効性や、「実事業で活用したい」「色々な異分野の事業者の方との対話は気づきが多い」などの声を頂きました。

3. 今後の活動予定

2024年3月16日（土）に、2023年度の分科会集大成として「SDGsスタートアップセミナー」を開催します。

【セミナー概要】

- 日時：2024年3月16日（土）9時30分～12時00分（参加無料）
- 会場：オンライン（Eventos）
- 主催：PMI日本支部
- 主な内容

【講演】

1. オープニング・PMI日本支部について
2. 講演Ⅰ 「～SDGsスタートアップ研究分科会5年間の歩み～ Why SDGs?とWhat is SDGs?のその先へ」
講演者：PMI日本支部 理事／SDGsスタートアップ研究分科会 代表・稲葉 涼太
3. 講演Ⅱ 「SDGsオワコン説に負けず、持続可能な開発を実現するには？」
講演者：PMI日本支部 SDGsスタートアップ研究分科会／Bizフォリオ合同会社
代表社員 三木 章義
4. 休憩
5. 講演Ⅲ 「SDGsを支えるエンゲージメント」
講演者：PMI日本支部 SDGsスタートアップ研究分科会 大前 良太
6. SDGsスタートアップ研究会PM座談会
登壇者：SDGsスタートアップ研究会PM 複数名
モデレータ：PMI日本支部 SDGsスタートアップ研究分科会 西原 真仁
7. クロージング